

50年間で550作品以上のパブリックアートを設置

「パブリックアート 50年のあゆみ -文化・芸術に親しむ社会を目指して」刊行

社会におけるパブリックアートが果たす役割・意義、
“1%フォー・アート”の重要性を紹介

公益財団法人日本交通文化協会（東京都千代田区、理事長：滝久雄）は、日本全国の駅や空港、学校、市庁舎、ホールといった公共空間にパブリックアートを設置して今年で50年を迎えました。1972年、東京駅に第一号作品「天地創造」（ステンドグラス／原画・監修：福沢一郎先生）を設置して以来、今日までに設置したパブリックアートの数は551作品に上ります。この50年の節目にあたり、「パブリックアート 50年のあゆみ-文化・芸術に親しむ社会を目指して」を刊行（非売品）いたします。



本書は、50年間で全国に550作品以上のパブリックアートを設置した実績を、パブリックアートが公共空間に美しく映える写真と共に紹介します。そして、パブリックアートが私たちの社会にもたらす意義や価値、効果について、パブリックアートの制作・設置にご協力いただいた作家や工房関係者、設置場所ご提供者、ご協賛者、地域の方々へのインタビューを通じて紹介しています。

大友克洋氏、野見山暁治氏、宮田亮平氏、日比野克彦氏などのアーティストには制作に携わったことへの想いを、野依良治氏、隈研吾氏、澄川喜一氏、五十嵐威暢氏などの有識者やアーティストにはパブリックアートの価値や、パブリックアート普及を加速させるために必要な、公共工事費もしくは公共建築費の1%をアートに充てる“1%フォー・アート”の法制化について語っていただきました。さらに、作品の設置後に、作品がどのように地域の中に溶け込み、親しまれているかをインタビューしました。

公共空間に賑わいや潤いをもたらす、行き交う人々の心を和ませ豊かにし、空間創出に大きな役割を果たすパブリックアート。日本交通文化協会は今後も文化・芸術に親しむ社会づくりのために、パブリックアートの普及振興活動を推進してまいります。

<書誌概要>

【書名】『パブリックアート 50年のあゆみ-文化・芸術に親しむ社会を目指して』

【刊行日】2022年11月30日

【仕様】A4判変型 128ページ

【制作】株式会社日経BP 日本経済新聞出版

※本誌は非売品ですが、ご興味のある方は当協会サイトの「お問い合わせ」からメールにてご連絡ください。